

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078300169		
法人名	社会福祉法人 立花福祉会		
事業所名	フラワーハイム		
所在地	福岡県八女市立花町下辺春5460番地1 (電話) 0943-37-1613		
自己評価作成日	平成 25 年 5 月 13 日	評価結果確定日	平成 25 年 7 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人理念「尊厳」のもと「フラワーハイム」では、お一人おひとりの個性を尊重した支援を目指します。「目配り・気配り・心配り」をモットーに入居者様が、毎日の生活に生きる楽しさや共に生活することで充実感を感じて頂き、このホームを「自分自身の居場所」として頂けるよう支援して行きたいと思っております。又職員自ら創意工夫し、安全・衛生面に配慮しながら、入居者様の日常生活及び人生経験を重んじ、笑いの絶えない「我が家」のような暮らしをサポートしながら、それぞれの生活スタイルに合わせた自立支援のための介護を提供しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 25 年 6 月 13 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自然豊かな山中に位置し、特別養護老人ホームを母体とした木造鉄骨平屋建て1ユニットの事業所である。法人理念である「尊厳」を基本とし、毎年度目標を掲げており、平成25年度は4項目掲げている。個別ケアに力を注ぎ、日々のケアの実践に取り組んでいる。法人として11種の委員会を作り、その活動はサービスの質の向上をめざしている。地域のイベントへの参加や法人全体で開催している夏祭り等は多いに地域貢献を果たしており、地域とのつながりを大切にしている。事業所は職員の卒直な意見や要望を聴いたり、資格取得を推奨したり働きやすい職場環境にある。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「尊厳」を踏まえ、基本方針及びスタッフ協議の上部部門目標を掲げ、その理念を共有し、支援に努めている。	事業所理念として「人として、普通にその人らしく」を独自に作っている。具体的な基本方針として「利用者が地域と共に自然に暮らし安心した生活を送ることが出来る」ように盛り込んでいる。管理者と職員は日々のケアの時々や月1回のケアカンファレンスなどで、理念の共有と実践に向けて話し合い、日々ケアサービスに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課としてホーム周辺の散歩を行い、地域の方と顔見知りになり、交流を図っている。又地域運営推進会議や地域行事の参加、園行事等を通じ交流を行っている。	法人として自治会に参加しており、地域情報は回覧されている。地域活動として文化祭に作品を出品したり、清掃や観梅会に参加している。法人・事業所主催の夏祭りには、地域に案内のポスターを貼ったりし、約400名の参加があり、地域の大イベントとして定着し地域貢献している。小・中学生、高校生の職場体験や行政の新人教育研修の受け入れなど行っている。散歩や隣近所の人達から花を頂くなど日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主催の介護教室など協力する体制をとっています。また研修生や職場体験など要請があれば可能な限り受け入れています。地域推進会議の折にも認知症状について説明を行い、理解を深めて頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度（年六回）の割合で市職員・区長・民生委員・家族・入居者・スタッフ参加のもと、地域運営推進会議を開催し、事業報告及び運営状況の報告し、協議を行っており、そこでの意見はサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催しており、サービスの利用状況や行事、活動、評価など取り組みを報告している。委員からは平成24年度の大水災害や八女地区単居者30%という現況での対応方法や協力体制作りなど、積極的に話し合いが行なわれている。記録もきちんと整理され、委員の参加もよく、和気あいあいとした会議になっており、会議で出た意見などはサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議や八女市地域密着型サービス連絡会議を通じ、市の担当者と事業者（現場）の実績やケアサービスにおける課題を協議しながら、協働機関を作っている。また運営に関する疑問や問題点がある場合は、その都度行政窓口に出向き相談助言を頂いている。	行政と事業所は日頃から連携を図っており、お互いに相談できる関係を築いている。月1回の行政主催「八女市地域密着型サービス連絡会議」の会議や研修会などに参加し、意見交換を行っている。家族からの問い合わせなどその都度相談する協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを作成し、委員会活動や研修会を通じ、自己啓発に努め身体拘束をしないケアについて理解を深めている。万が一事故に繋がる場合は、ご家族へ十分な説明を行い同意のもと、実施している。（同意書作成）	日中は施錠していない。法人と共に身体拘束廃止委員会を設置し、月に1回、拘束・虐待に関する研修を行い、意識づけを行っている。外出傾向のある利用者については、その傾向を把握しており外出時はさりげなく付添い、散歩などして見守っている。隣接施設や近隣の方々にも見守り・声かけ・連絡を依頼している。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書などがある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、事業所内での虐待が見過ごされる事のないよう注意を払い、防止に努めている。また研修会に参加し、虐待防止について学ぶ機会もち理解を深めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修や外部研修に参加し、理解を深め必要と考えられる入居者に対しては、支援できる体制をとっています。	権利擁護に関する制度については、利用者・家族に契約時に説明している。職員は外部・内部研修で学ぶ機会があり、テキスト・パンフレット・研修記録などがある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には、契約書や重要事項説明書に添って、解り易いように十分説明し、不安の軽減や疑問点については、納得理解して頂き、同意を得て契約行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、本人やご家族に対し相談・苦情窓口について説明行っています。また重要事項説明書をホーム内に掲示及びご意見箱を設置しており、意見や要望に対しては、速やかに運営に反映させるよう心掛けています。	利用者・家族は運営推進会議に出席しており、意見や要望、苦情など述べる機会がある。家族の来訪時には意見や要望が聴けるよう声かけに努めている。利用者が意見や思いを伝えられない場合は他の職員に聴いたり、利用者と目線をあわせ日頃の生活の中で表情、態度から引き出すように努めている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケアカンファレンスを開催し協議を行い、意見交換や情報の共有を図っており、日頃より提案や意見など発言しやすいよう、職場環境作りに取り組んでいます。	職員は日常的に運営に対する意見や提案、研修受講、勤務に対する希望などを卒直に言いやすい環境となっている。備品の購入や台所、壁の補修など職員の意見や気づきなどを運営に反映している。自己評価は職員全員に評価表を配布し各項目を作成している。ケアカンファレンスにおいて全職員で話し合い、管理者が集約し作り上げている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人運営者は、日頃より職員個々とコミュニケーションを図り、努力や実績・勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう配慮行っており、必要時には、助言や話し合いの場を設けている。又法人の職務規定により資格取得や勤務年数に応じ、昇給・昇進を行い意欲を持って働けるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員採用にあたっては、介護職の経験、資格及び人間性を重視し、希望者には公平な面接を行っている。また研修やグループホーム部会研修などへの参加などバックアップ体制を整えている。</p>	<p>採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。事業所は「働きやすい職場環境」を目指しており、資格取得や勤務しやすいシフトづくりなどに力を注ぎ、離職者も少なく職員はいきいきと働いている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権研修を参加する機会を設け、また法人でも研修を行い、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>事業所は全職員に対し外部・内部研修で人権教育について学ぶ機会が設けている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書などがある。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の資格や力量に応じた研修を受講できるよう体制を整えている。また法人主催の研修会を開催し、スキルアップに努めている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム部会や八女市地域密着型サービス連絡会議を通じ、同業者との交流や情報の共有を図り、サービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>申し込みがあった場合は、事前訪問やホームへ来訪して頂き説明を行い、要望や不安な点などを伺いながら受け止めるよう努めています。相手の立場に立って傾聴する事で信頼関係を築き、本人及び家族の思いを理解し、ご自身を支えるよう努めています。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望がある場合には、随時見学を受け入れ、パンフレットに添って説明を行い、現在お困りの点や不安な事を傾聴するよう心掛けています。又事前面談を行い本人のニーズ把握や情報提供を受けている。(アセスメント実施)</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの充実やADL等の情報を共有し、必要なサービスの提供に努めています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員ペースでの一方的な支援は行わず、声のトーンや態度に注意を払い、自ら意欲的に参加されるような雰囲気作りを心掛け、出来る事は行って頂くよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からご家族と連絡を取り、入居者様の思いや状態、生活の様子を理解して頂き、家族と共に支えるように努めている。また定期的にホーム便りを発行している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪時には、ゆっくり面会して頂けるよう努めています。また馴染みの場所へのドライブの機会を提供したり、馴染みの方が法人内の別のサービスを利用してある際には、訪問し面会を行っています。	利用開始時、利用者の基本情報を聴取する際に本人および家族などから、馴染みの人や場所について聴取している。利用者の希望で実家や知人に会いに行ったり、隣接の特別養護老人ホームやデイサービス利用者の知人を訪問する機会などを支援し、法人全体で関係継続できるよう努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃のコミュニケーションや様子観察により、入居者の関係を把握し、極力トラブルの招かないよう支援を行っています。トラブル発生時には、両者の思いを汲み取りながら仲裁行い、他の入居者様に不安を与えないよう支援行っています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも要請があれば、本人やご家族のフォローや相談にのり支援できる体制を整えています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で言葉や表情から希望や意向を汲み取り、本人本位の支援ができるよう努めている。把握困難な場合は、本人の視点に立って検討を行っている。	利用者一人ひとりの思いや希望を日々の会話の中で把握している。意思疎通が困難な利用者に対しては、家族からの聞き取りや利用者の表情、行動から理解するよう努めており、職員間でも利用者一人ひとりの思いや意向に沿ってその都度話し合っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力を得、生活歴や暮らしぶりの情報、生活環境、これまでのサービス利用の経過など把握し、職員間で情報の共有を図っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る事・理解力・可能性を見出すように努め心身の情報などケース記録に残し、職員間で情報の共有を図っている。又毎月のケアカンファは、モニタリングを兼ね総合的に現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やケアカンファレンスを通じ、本人や家族のニーズに合った課題やケアの在り方について話し合い、現状に即した介護計画を作成し、定期的に見直しや振り返りも行っている。	本人・家族の意見や要望を踏まえ、全職員の気付きも取り入れ、短期で3ヶ月または6ヶ月に1回の割合で本人本位の介護計画を見直し作成している。また、利用者の状態に変化があればその都度、家族や主治医と相談しながら随時見直している。介護計画書に本人や家族から署名・捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきやケアの実践結果、日々の生活の様子をケース記録に記入し、職員間で情報の共有を行い、ケアに反映し見直しの参考にしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医受診や重度化対応など、その時々本人・ご家族のニーズに対し柔軟な支援を行うよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加や外部・地域の方々の施設見学、市職員の職場研修、地域のボランティア、高校の実習など受け入れ体制を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の往診や訪問歯科による口腔ケア（1/月）があり、希望されれば馴染みの医師による継続的な治療が受けられるよう支援を行っている。	本人や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。月2回、主治医の訪問診察を受けている。かかりつけ医との連携を密にし情報を共有している。また、家族等とは受診時の通院介助の方法や伝達の方法についても話し合い、合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より主治医及び看護師に相談助言を仰いでいる。また隣設の特別養護老人ホームの看護師と連携し緊急時に対応できる体制を整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはご家族の同意のもと情報提供を行っている。入院中もスタッフが交代で面会に行き関わりを継続し、医療機関とも連携し早期退院に繋がるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針を説明し、確認を行っている。また終末期をホームで安心して過ごしていただけるよう、ホームで可能な事、困難な事、不安な事を率直に話し合い、同じ思いで家族や主治医等と連携し支援を行っている。	事業所の対応方針があり、明文化している。必要に応じ、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行い、同意書を作成している。本人や家族の意向を踏まえ、医師と連携を図り、利用者や家族が安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ケアカンファレンスに於いてマニュアル確認と周知徹底を行っている。研修会に参加し、初期対応や応急手当について学んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回法人全体で避難訓練を実施、避難経路、場所、方法、消火器の使用方法など確認を行っている。又ケアカンファレンスに於いてマニュアル確認、周知徹底行い災害に備え非常食も準備している。地域の方々には、運営推進会議の際に連絡方法や応援体制について確認し、体制を整えている。	マニュアルがあり、法人全体で年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。また、事業所のみでも臨時に夜間を想定した避難訓練を行っている。訓練には運営推進会議の委員や地域代表者に呼びかけを依頼し、地域住民の参加を得ている。非常用備品・食料・飲料水等は事業所内台所テーブルの下に保管している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別対応を基本に本人の気持ち、誇り、プライバシーを損なうことがないよう声掛けや対応を行っている。また研修に於いて職員の意識向上を図り、利用者様のプライバシーに配慮を行っている。	職員は利用者の気持ちを大切にし、さりげないケアを心がけている。また研修などで職員の意識向上を図り、気付きや意見があれば、管理者がその都度注意し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の場面では、傾聴を心掛け意思表示し易い質問をしたり、表情や会話から意向や要望を察し、本人の希望を優先し対応している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日のスケジュールは組んでありますが、一人一人の生活のリズムに合わせ臨機応変に対応し、利用者様の意思を尊重しながら支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用される際には、事前に希望を伺い満足されるよう配慮を行っている。衣類については、家族に準備して頂き更衣の際には、ご自分の好みで服を選んで頂くよう支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が立てた献立に基づき利用者様の好みに合わせアレンジ調理し、雰囲気配慮し同じテーブルで会話をしながら、食事が楽しい時間になるよう努めている。又利用者様と一緒にテーブルを拭いたり、引き膳、野菜の下ごしらえ等を行っている。	2ヶ月に1回、法人内で設置している「食委員会」を開催し、既定のメニューに利用者の好みをアレンジしたり、栽培した馬鈴薯を調理したり食事への関心を引き起こす工夫をしている。利用者は野菜の皮むきや台拭きを行っている。職員は一緒に同じ食事を同じテーブルで摂り、楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を基に提供し、摂取量を把握している。又摂取量減少により栄養面が心配される方には、主治医や管理栄養士と相談の上の栄養補助食品の提供も試みている。水分摂取は、お茶を準備し、いつでも飲んで頂けるようにし、こまめに声掛けを行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1/月、歯科医による口腔ケア及び指導を受けられてあり、毎食後、一人一人の状態に合わせた方法で口腔ケアを実施している。又、1/週、義歯を預かり義歯洗浄行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自排泄チェックを行い、排泄パターン、間隔、兆候を把握し介助が必要な方については誘導行っている。オムツ使用の方については、時間毎の確認、支援行っています。	自尊心に配慮しながら、身体機能に応じ排泄の前誘導や歩行介助などしている。紙パンツやパットなど本人にあわせて検討し、習慣を活かして、トイレで排泄できるよう、自立に向けた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を確認し、主治医の医学的管理も含め対応行っている。食事の際には、水分摂取の声掛けや野菜や食物繊維の物を多くとって頂くよう心掛け、心身の状態に応じて散歩や体操など体を動かして頂くよう支援行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者様の希望に応じた湯量、湯温にて対応行っている。入浴を拒否される利用者様に対しては、声掛けのタイミングを工夫する等しているが、難しい場合は、翌日に入浴して頂いている。	基本的に週3回の入浴を設定しているが、利用者が希望すれば毎日でも入浴は可能である。入浴を拒む方には、言葉かけや対応の工夫など行い、その人にあわせて入浴支援をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンを把握し、不眠の方にはなるべく眠剤に頼らず、1日の生活のリズムを整え、声掛けや見守りを行いながらスムーズな睡眠を促している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況表を基に把握し、氏名・服薬名等記載された専用の袋を確認しながら服用して頂いている。また処方変更の場合は、PC、服薬管理表にて把握し、薬の効能、副作用については専門書にて確認行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や得意とされる事を把握し、家事手伝い、生け花、野菜作りなど役割を持って頂いています。またバスハイクや気分転換の機会を提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の身体的、精神的状態を踏まえ、希望に応じ日々の散歩や畑仕事、地域行事等戸外へ出ることを意識し支援行っている。	体調や希望により週2～3回、15～20分程度、事業所の周辺を散歩している。また歩行困難な利用者でも車や車いすなどを利用し、戸外へ出る事を積極的に行っている。季節に応じ、菖蒲・紅葉祭・牛石岩祈願祭などバスハイクしている。家族との外出・外泊も積極的に支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さは意識されていますが、認知症状の進行に伴い金銭管理が困難になられてある為、ご家族と相談の上事務所にて、少額お預かりしています。必要時には、家族の了承を得、買い物援助を行っています。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話利用の際は、代行支援行っている。又年賀状や暑中お見舞い等書かれる機会を提供し支援行っています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間には、利用者の方々にとって不快な音や光が入らないように配慮行っている。また調度品や物品などは、家庭的な温かみのある雰囲気のある物を選択し、季節の花々を飾るよう心掛けている。	共用空間の壁には、利用者と職員が協働製作した季節の花のちぎり絵や、利用者それぞれの日常スナップ・誕生会・家族写真などが掲示されている。リビングからは自然いっぱいの景色があり安らぎが感じられる。不快な音や光もなく居心地よく過ごせるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームには、ソファやテーブル、椅子を配置し、利用者同士交流が持てるよう配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や衣類等を持ち込んで頂き、落ち着いて居心地良く生活して頂けるよう配慮し、環境変化に伴う認知症状の進行に気を配っている。	利用者の馴染みの調度品や家具、テレビ、仏壇などが持ち込まれている。壁には、本人の誕生祝いの写真や家族の写真に囲まれ、居心地良く過ごせるように配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレなど要所要所に手すりを設置し、浴室にはシャワーチェアや滑り止めマット設置し、安全に配慮行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
			○	③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない